

寄贈ロシア紙幣について

About Russian paper moneys presented by Mr.Ono

塩谷 昌史 (Masachika SHIOTANI)*

キーワード：ロシア紙幣、ロシア革命、シベリア出兵、ブラゴヴェシェンスク
Keywords: Russian paper money, the Russian Revolution, the dispatched troops to Siberia, Blagoveshensk

1. はじめに

山田勝芳先生（東北大学名誉教授）が東北アジア研究センター長を務めておられた時期の、2003年10月24日に小野貞夫氏（埼玉県所沢市在住）から、31点のロシア紙幣が東北アジア研究センターに寄贈された。この紙幣は現在センター事務室の金庫に保管されている。本稿では、将来、当センターの財産目録等が作成される際の参考にしていただければ幸いと考え、その寄贈紙幣がどのような時代背景の下で使用されたかについて解説してみたい。

2. ロシア紙幣に関する調査

このセンターの寄贈紙幣は小野貞夫氏の御宅に所蔵されていたものである。2003年6月頃、小野氏は日本銀行金融研究所・貨幣博物館に、ロシア紙幣の由来について照会された。小野氏の親族の方が随分前にロシアからこの紙幣を持ち帰られ、家に保管されていた。だが、ロシアでこの紙幣がどのように使われ、現在どれほどの価値があるのかが小野氏には不明であったため、貨幣博物館に問い合わせられた。貨幣博物館には日本紙幣の専門家は勤務しているが、外国紙幣の専門家はおらず、貨幣博物館の職員は小野氏の照会に対応できなかった。当時、山田先生は中国の紙幣鑑定の仕事で、貨幣博物館の専門家と接触されていた。森本光彦氏（貨幣博物館・職員）は、ロシアの専門家を擁する東北アジア研究センターであれば、紙幣の由来を調査できるかもしれないと推測され、山田先生にロシア紙幣の調査を依頼された。

山田先生は、ロシアのノヴォシビルスクにしばしば滞在する私（塩谷）に、このロシア紙幣の調査を依頼され、私が紙幣調査を引き受けることになった。ノヴォシビルスクにはロシア科学アカデミー・シベリア支部があり、シベリア支部傘下の多くの研究所を統括している。その一つに歴史研究所がある。歴史研究所のラーミン所長と私は親しい間柄だったので、ラーミン氏に相談すれば解決の糸口は見つかるだろうと考えた。調査を始めるに当り、小野氏が所蔵するロシア紙幣のコピーを山田先生から受け取った。その後、2003年7月下旬にノヴォシビルスクに到着後に、私は歴史研究所を訪れラーミン所長に会い、ロシア紙幣調査について助言を求めた。歴史研究所には多くのロシア史研究者が働いている。そのスタッフの中で19～20世紀初頭のロシア経済史

* 東北大学東北アジア研究センター

を研究するレズン氏を紹介された。早速、レズン氏に会い、ロシア紙幣について尋ねたところ、「私はロシア経済史を研究しているが、実物の紙幣鑑定には明るくない」と言われたため、ラーミン所長を再度訪れ相談した。

「ロシア革命前後の通貨制度を研究している専門家を知っているが、彼女はブラゴヴェシエンスクにいる。ブラゴヴェシエンスクに行くなら、その専門家を紹介しよう」と言われた。地図で調べると、ブラゴヴェシエンスクは極東のハバロフスク近郊に位置する。ノヴォシビルスクからブラゴヴェシエンスクへの航路があることを旅行代理店で確認し、ブラゴヴェシエンスクに行くことにした。パストゥーホヴァ・イェレーナ氏がロシア貨幣史の専門家であり、アムール州郷土博物館・館長を務めておられる。彼女はラーミン所長の大学院生であり、当時、学位論文を執筆中であった。ブラゴヴェシエンスクに行く前に歴史研究所を訪れ、念のためにラーミン所長にパストゥーホヴァ氏に電話してもらい、私の受け入れについて確認していただいた。ブラゴヴェシエンスクの空港まで迎えに来るとの回答だった。

2003年9月16日の夜、ノヴォシビルスクを経ち、まずクラスノヤルスクに向かった。クラスノヤルスク空港はシベリアの小さなハブ空港である。深夜1時～3時にロシアの各地から飛行機がクラスノヤルスク空港に到着する。そこで乗客を一旦降ろし、目的地別のゲートに降り分ける。その後、明け方の3時～5時に飛行機は一斉にロシア各地へ飛ぶ。私はブラゴヴェシエンスク行きの飛行機に乗り、9月17日の朝8時頃、目的地に無事到着した。約束通り博物館・館長のパストゥーホヴァ氏が車で迎えに来てくれた。飛行機の乗客の中でアジア系の顔をした者は私だけだったので、彼女はすぐに私を見つけた。彼女は私を市内のホテルまで案内してくれた。ホテルに到着後、しばらくホテルで仮眠を取り、昼頃にホテルから郷土史博物館に徒歩で向かった。博物館に到着すると館長室に通された。

館長のパストゥーホヴァ氏に私の訪問目的を事前にFAXで知らせていたが、私の真意は正確には理解してもらえなかったようである。私がロシア史研究者であるため、ロシア革命前後の紙幣制度について私が研究の助言を求めに来たと、彼女は考えていた。私は日本から持参したロシア紙幣のカラーコピーを見せ、この紙幣の調査が今回の目的であると説明した。彼女はようやく私の真意を理解してくれたが、個々のロシア紙幣の鑑定は自分にはできないと答えた。歴史研究者は事実の発掘や分析には長けているが、実際の古物鑑定は得意でない場合が多い。むしろ古物商かコレクターの方が古物鑑定に秀でている。パストゥーホヴァ氏は、博物館内に紙幣収集が趣味の職員がいると話し、その職員を呼んでくれた。職員のスピクリン・アレクサンドル氏が館長室に入ってきたので、私がロシア紙幣のカラーコピーを見せると、紙幣の何点かについて説明してくれた。しかし、彼にも分からない紙幣があった。「明日、友人の古物商を博物館に招くので、彼にロシア紙幣の鑑定をしてもらおう」と答えた。

旧ソ連時代に収集家（コレクター）のネットワークが存在したことを、今回の調査により知った。特に、切手、コイン、紙幣についてはマニアが多い。また毎年『コレクター』という雑誌が出版されており、新しい掘り出し物や切手やコイン等の相場、収集物交換会の開催日時・場所が掲載されている。ロシアの大都市であれば週一回はどこかで定期的な収集物の交換会が行われる。

ノヴォシビルスクでも毎週日曜日に市内の公園で交換会が行われることを、後に知った。紙幣を鑑定する際、収集家は紙幣の番号と紋章に注目する。紙幣に年号が記されていない場合でも、収集家は紙幣番号により発行年を特定できる。帝政ロシア時代には領土が拡大すると、必ず新しい紋章が紙幣に追加された。そのため紋章を見るだけでも、おおよその発行時期がわかる。当然のことながら、紙幣の流通は国の統治者の信用と密接に結びついているため、政権交代や革命が生じると流通紙幣も変わる。

9月18日午前10時に郷土史博物館を訪れると、古物商のホルマンスキフ・ウラジミール氏が私を待っていた。ロシア紙幣のコピーを見せ、調査の目的を説明すると、全ての紙幣の由来について丁寧に説明された。結論から述べると、調査対象のロシア紙幣はロシア革命（1917年前後）からシベリア臨時政府の終焉（1923年）までシベリアと極東で使用された。その中に、1920年にウラジオストックのみで流通した紙幣があったのは興味深い。それはつまり、このロシア紙幣を収集した日本人が1920年前後にウラジオストックに滞在していたか、日本のシベリア出兵に従軍したかの何れかだと思われた。寄贈者である小野氏の親族がシベリアに出兵された際に、この紙幣を現地で収集されたことを後に知った。

3. ロシア紙幣の鑑定結果

ホルマンスキフ氏の鑑定結果を以下に記す。

01. 1ルーブル紙幣：ロシア帝政ニコライ2世の統治期（1898～1917年）に流通。
02. 3ルーブル紙幣：ロシア帝政ニコライ2世の統治期（1898～1917年）に流通。
03. 3ルーブル紙幣：ロシア帝政ニコライ2世の統治期（1898～1917年）に流通。
04. 20ルーブル紙幣：ケレンスキーの臨時政府期（1917年7月～10月）に流通。
05. 4ルーブル50カペイカの債権：ケレンスキーの臨時政府期（1917年7月～10月）に流通。
この紙幣は米国で印刷されたもので、色彩に優れている。
06. 4ルーブル50カペイカの債権：ケレンスキーの臨時政府期（1917年7月～10月）に流通。
この紙幣も米国で印刷された。
07. 4ルーブル50カペイカの債権：ケレンスキーの臨時政府期（1917年7月～10月）に流通。
この紙幣も米国で印刷された。
08. 200ルーブルの債権：ケレンスキーの臨時政府期（1917年7月～10月）に流通。この紙幣も米国で印刷された。
09. 200ルーブルの債権：ケレンスキーの臨時政府期（1917年7月～10月）に流通。この紙幣も米国で印刷された。
10. 200ルーブルの債権：ケレンスキーの臨時政府期（1917年7月～10月）に流通。この紙幣も米国で印刷された。
11. 5カペイカ紙幣：1920年にウラジオストックのみで流通。
12. 10カペイカ紙幣：1920年にウラジオストックのみで流通。
13. 10カペイカ紙幣：1920年にウラジオストックのみで流通。

14. 30 カペイカ紙幣：1920年にウラジオストックのみで流通。
15. 50 カペイカ紙幣：1920年にウラジオストックのみで流通。
16. 50 カペイカ紙幣：1920年にウラジオストックのみで流通。
17. 50 カペイカ紙幣：1920年にウラジオストックのみで流通。
18. 100 ルーブル紙幣：シベリア臨時政府（アトマン・セミョーノフ）の統治期（1918～1920年）に流通。
19. 500 ルーブル紙幣：シベリア臨時政府（アトマン・セミョーノフ）の統治期（1918～1920年）に流通。
20. 1 ルーブル紙幣：シベリア臨時政府の統治期（1918～1923年）に流通。
21. 1 ルーブル紙幣：シベリア臨時政府の統治期（1918～1923年）に流通。
22. 3 ルーブル紙幣：シベリア臨時政府の統治期（1918～1923年）に流通。
23. 3 ルーブル紙幣：シベリア臨時政府の統治期（1918～1923年）に流通。
24. 5 ルーブル紙幣：シベリア臨時政府の統治期（1918～1923年）に流通。
25. 10 ルーブル紙幣：シベリア臨時政府の統治期（1918～1923年）に流通。
26. 25 ルーブル紙幣：シベリア臨時政府の統治期（1919～1923年）に流通。
27. 50 ルーブル紙幣：シベリア臨時政府の統治期（1919～1923年）に流通。
28. 50 ルーブル紙幣：シベリア臨時政府の統治期（1919～1923年）に流通。
29. 500 ルーブル紙幣：シベリア臨時政府の統治期（1920～1923年）に流通。
30. 1000 ルーブル紙幣：シベリア臨時政府の統治期（1920～1923年）に流通。
31. 1000 ルーブル紙幣：シベリア臨時政府の統治期（1920～1923年）に流通。

ロシア史に通暁していない方には、上記の説明だけでは不明な点があるかもしれない。そこで、紙幣の背景となるロシア革命と日本のシベリア出兵について解説する。

4. 紙幣の背景

第1次世界大戦中の1917年2月にロシアで2月革命が勃発し、ロマノフ王朝は幕を閉じる。その後、労働者と兵士の代表による評議会ソヴィエトが首都ペトログラードで組織される一方、リヴォフ首相が臨時政府を成立させる。1917年2月～10月の期間、ロシアではソヴィエト政権と臨時政府との二重権力構造が生じた。その後、ソヴィエト政権の組織内部で勢力の転換が起こる。ソヴィエト政権では、当初メンシェヴィキと社会革命党左派が主流派だったが、1917年5月以降にボリシェヴィキが勢力を拡大する。他方1917年7月に臨時政府ではリヴォフ首相からケレンスキーに実権が移り、ケレンスキーが臨時政府を統治する。1917年8月23日の政令により臨時政府は紙幣を発行する [М а л ы ш е в 1991: 82]。このケレンスキーの臨時政府の統治期に、No.04を除く寄贈紙幣・債権（No.05～10）が発行されるが、その印刷は米国で行われた（実際にはこのケレンスキー時に印刷された紙幣は、ロシア中央部では使用されず、もっぱら地方の反革命勢力の地域、コルチャークやセミョーノフが統治していたシベリア・極東で使用された）。

1917年10月に10月革命が起こり、ボリシェヴィキが武装蜂起を起こし臨時政府を崩壊させ、

全ロシア＝ソヴィエト会議でソヴィエト政権の樹立を宣言する。ロシアにおける二重権力構造が解消され、権力はソヴィエト政権に移行する。1917年12月にロシア初の普通選挙による憲法制定会議が招集されるが、ポリシェヴィキの提案が否決されたため、ポリシェヴィキは武力で議会を解散し、組織をロシア共産党と改称し、ペトログラードからモスクワに遷都する。1918年2月にロシア共産党はドイツとブレスト＝リトフスク条約を締結し、第1次世界大戦から撤退するが、この条約により白軍は南ロシアやシベリアで蜂起し、ポリシェヴィキ政権に反旗を翻し内戦を起こす。

第1次世界大戦中に反オーストリア感情がチェコで高まっていた。ロシアはこれを利用し、チェコ人捕虜から成るチェコ軍団を組織する。1918年6月に臨時政府と連合軍の合意に基づきチェコ軍団はウラジオストックに向かうが、彼等はチェリャピンスクで反乱を起こす。1918年秋までに、白軍側はチェコ軍団の協力を得てシベリア鉄道沿いに拡大し、西シベリア、ヴォルガ、ウラルを勢力下に置く。その後、シベリアのオムスクに暫定政府が成立するが、1918年11月にコルチャークがクーデターを起こし独裁制を敷く。彼は軍隊を率いてモスクワに進軍するが、1919年6月に赤軍がコルチャーク軍を押し返し、1919年11月までにコルチャーク軍は四散し、暫定政府は終焉を迎える。

他方、オムスク暫定政府成立時にセミョーノフは、コルチャークからザバイカル地域の統治権限を引き受ける。ロシア革命当時セミョーノフはザバイカル・コサックの統領であった。極東三州の独占的利権を確立したい日本軍は、反ポリシェヴィキ勢力の軍事指揮官としてセミョーノフを擁立する。しかしコルチャークの暫定政権崩壊後、セミョーノフは日本軍の支持を失い失脚し、1921年にロシアから米国に亡命する。セミョーノフの統治期に、No.18とNo.19の紙幣が主にバイカル湖東岸地域で利用された。

1918年に連合軍は、シベリアに孤立したチェコ軍救出を名目にしてシベリアに出兵する。同年8月に米国の出兵に合わせて、日本はウラジオストックに軍隊を派兵する（日本の占拠した地域では、ロシア紙幣だけでなく日本の円も使用された）。1919年にドイツが第1次大戦に敗北すると、連合軍はシベリアに留まる理由がなくなり撤兵するが、日本軍はロシアへ駐留し続ける。日本軍は、①ウラジオストック～ハバロフスク～ブラゴヴェシエンスク～イルクーツク、②ウラジオストック～ハルビン～満州里～イルクーツク、③ウラジオストック～ハバロフスク～ニコライエフスク、の三つのルートでシベリアに進軍した。小野氏の所蔵紙幣にはセミョーノフ統治期の紙幣が含まれていたため、親族の方はおそらく①か②のルートを辿られたものと思われる（ロシア紙幣を寄贈された小野氏の親族の方は、このシベリア出兵に参加された）。

寄贈紙幣にまつわる歴史は以上である。ロシア紙幣のコレクターであるホルマンスキフ氏の鑑定は見事だった。しかし、それ以上に驚いたのは、ブラゴヴェシエンスクがシベリア出兵時に日本軍とロシア人との戦場が行われた場所だったことである。9月18日の昼、博物館の同僚の方に、市内から車で約40分程の距離にあるイヴァノヴォ村に案内された。19世紀初頭に既にイヴァノヴォ村の入植が始まっているので、比較的古い村である。村に到着すると博物館に案内された。博物館の前には、実際に戦場で使われた戦車が二台展示されている。博物館にはイヴァノヴォ村

の歴史が展示されていた。村で使用された物や写真が飾られてある。日本人から見て、退役軍人の斉藤六郎氏のメッセージが興味深かった。

日本軍はウラジオストックからブラゴヴェシエンスクを経てイルクーツクに進軍した。その際、日本軍はイヴァノヴォ村でロシア人と戦闘を行い、民間人を含む200名以上のロシア人が亡くなった。その戦いの様子は博物館でも再現されている。日本人の退役軍人協会は、その亡くなられた方の魂を弔うために資金を集め、1993年にこの村に碑を建てた。建立の際に退役軍人代表の斉藤六郎氏が現地を訪れ式典を行った。その時の様子が館内に展示されている。日本人が建てた碑は今でも村の隅に静かに立っている。私は偶然にこの村を訪れたが、日本人の足跡を見るのは感慨深かった。9月19日の朝、博物館職員に感謝を述べブラゴヴェシエンスクを立ち、ノヴォシビルスクに戻った。

引用文献

Мальшев, А.Е. 1991

Бумажные денежные знаки России и СССР, Москва: Финансы и Статистика

ロシア紙幣を本センターに寄贈していただいた小野貞夫氏とその親族の方々、紙幣を鑑定していただいたホルマンスキフ氏には記して感謝を申し上げます。

(表)



(裏)



01. 1ルーブル紙幣：ロシア帝政ニコライ2世の統治期(1898-1917年)に流通
紙幣の大きさ(縦8.5cm×横14.9cm)、縮小比率(50%)

(表)



(裏)



02. 3ルーブル紙幣：ロシア帝政ニコライ2世の統治期(1898-1917年)に流通
紙幣の大きさ(縦9.8cm×横15.3cm)、縮小比率(50%)

(表)



(裏)



03. 3ルーブル紙幣：ロシア帝政ニコライ2世の統治期(1898-1917年)に流通
紙幣の大きさ(縦9.8cm×横15.2cm)、縮小比率(50%)

寄贈ロシア紙幣について

(表)



(裏)



04. 20 ルーブル紙幣：ケレンスキーの臨時政府期(1917年7月～10月)に流通
紙幣の大きさ(縦4.9cm×横6.4cm)、縮小比率(100%)

(表)



(裏)



05. 4 ルーブル 50 カペイカの債権：ケレンスキーの臨時政府期(1917年7月～10月)に流通
紙幣の大きさ(縦4.3cm×横6.8cm)、縮小比率(100%)



06. 4 ルーブル 50 カペイカの債権：ケレンスキーの臨時政府期(1917年7月～10月)に流通
紙幣の大きさ(縦4.1cm×横6.4cm)、縮小比率(100%)

(表)



(裏)



07. 4ルーブル 50カペイカの債権：ケレンスキーの臨時政府期(1917年7月～10月)に流通
債権の大きさ(縦19.6cm×横27cm)、縮小比率(35%)

(表)



(裏)



08. 200ルーブルの債権：ケレンスキーの臨時政府期(1917年7月～10月)に流通
債権の大きさ(縦19.2cm×横19.7cm)、縮小比率(50%)

(表)



(裏)



09. 200ルーブルの債権：ケレンスキーの臨時政府期(1917年7月～10月)に流通
債権の大きさ(縦19.2cm×横19.7cm)、縮小比率(50%)

(表)



(裏)



10. 200 ルーブルの債権：ケレンスキーの臨時政府期(1917年7月～10月)に流通
債権の大きさ(縦19.2cm×横19.7cm)、縮小比率(50%)

(表)



(裏)



11. 5 カペイカ紙幣：1920年にウラジオストックのみで流通
紙幣の大きさ(縦3.7cm×横6.2cm)、縮小比率(100%)

(表)



(裏)



12. 10 カペイカ紙幣：1920年にウラジオストックのみで流通
紙幣の大きさ(縦4.2cm×横7cm)、縮小比率(100%)

(表)



(裏)



13. 10カペイカ紙幣：1920年にウラジオストックのみで流通
紙幣の大きさ（縦4.2cm×横7cm）、縮小比率（100％）

(表)



(裏)



14. 30カペイカ紙幣：1920年にウラジオストックのみで流通
紙幣の大きさ（縦4.7cm×横7.7cm）、縮小比率（100％）

(表)



(裏)



15. 50カペイカ紙幣：1920年にウラジオストックのみで流通
紙幣の大きさ（縦5.6cm×横9.2cm）、縮小比率（100％）

(表)



(裏)



16. 50 カペイカ紙幣：1920年にウラジオストックのみで流通
紙幣の大きさ（縦 5.6cm × 横 9.3cm）、縮小比率（100%）

(表)



(裏)



17. 50 カペイカ紙幣：1920年にウラジオストックのみで流通
紙幣の大きさ（縦 5.7cm × 横 9.2cm）、縮小比率（100%）

(表)



(裏)



18. 100 ルーブル紙幣：シベリア臨時政府(アトマン・セミョーノフ)の統治期(1918～1920年)に流通
紙幣の大きさ（縦 8.1cm × 横 12.2cm）、縮小比率（70%）

(表)



(裏)



19. 500 ルーブル紙幣：シベリア臨時政府（アトマン・セミョーノフ）の統治期（1918～1920年）に流通
紙幣の大きさ（縦 8.6cm × 横 15cm）、縮小比率（60%）

(表)



(裏)



20. 1 ルーブル紙幣：シベリア臨時政府の統治期（1918～1923年）に流通
紙幣の大きさ（縦 7.4cm × 横 11.8cm）、縮小比率（70%）

(表)



(裏)



21. 1 ルーブル紙幣：シベリア臨時政府の統治期（1918～1923年）に流通
紙幣の大きさ（縦 7.4cm × 横 11.8cm）、縮小比率（70%）

(表)



(裏)



22. 3ルーブル紙幣：シベリア臨時政府の統治期（1918～1923年）に流通
紙幣の大きさ（縦7.3cm×横11.9cm）、縮小比率（70%）

(表)



(裏)



23. 3ルーブル紙幣：シベリア臨時政府の統治期（1918～1923年）に流通
紙幣の大きさ（縦7.3cm×横12cm）、縮小比率（70%）

(表)



(裏)



24. 5ルーブル紙幣：シベリア臨時政府の統治期（1918～1923年）に流通
紙幣の大きさ（縦7.3cm×横12cm）、縮小比率（70%）

(表)



(裏)

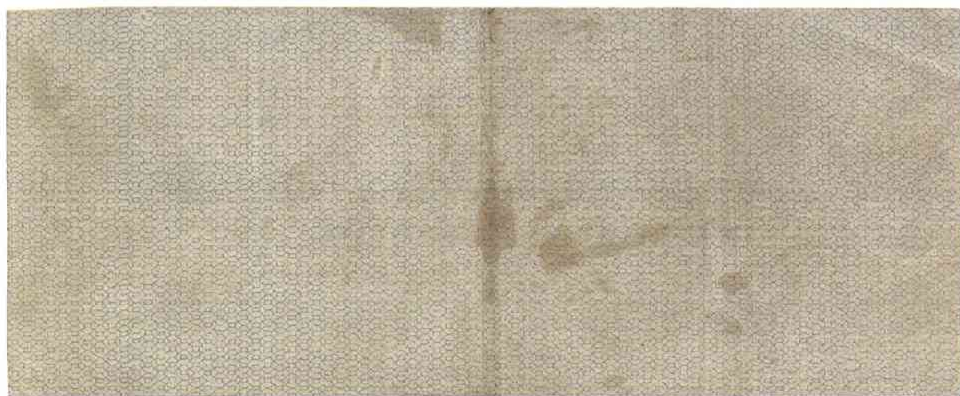


25. 10ルーブル紙幣：シベリア臨時政府の統治期（1918～1923年）に流通
紙幣の大きさ（縦7.7cm×横12.2cm）、縮小比率（70%）

(表)



(裏)



26. 25ルーブル紙幣：シベリア臨時政府の統治期（1919～23年）に流通
紙幣の大きさ（縦5.8cm×横14.4cm）、縮小比率（80%）

寄贈ロシア紙幣について

(表)



露國革命後
オムスノ政府
発行紙幣……
五十留

(裏)



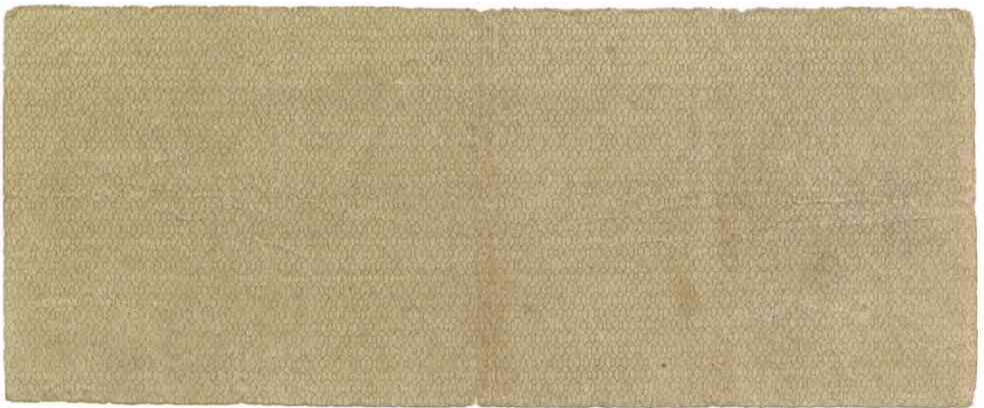
露國革命後
オムスノ政府
発行紙幣……
五十留

27. 50 ルーブル紙幣：シベリア臨時政府の統治期(1919～23年)に流通
紙幣の大きさ(縦5.9cm×横14.3cm)、縮小比率(80%)

(表)



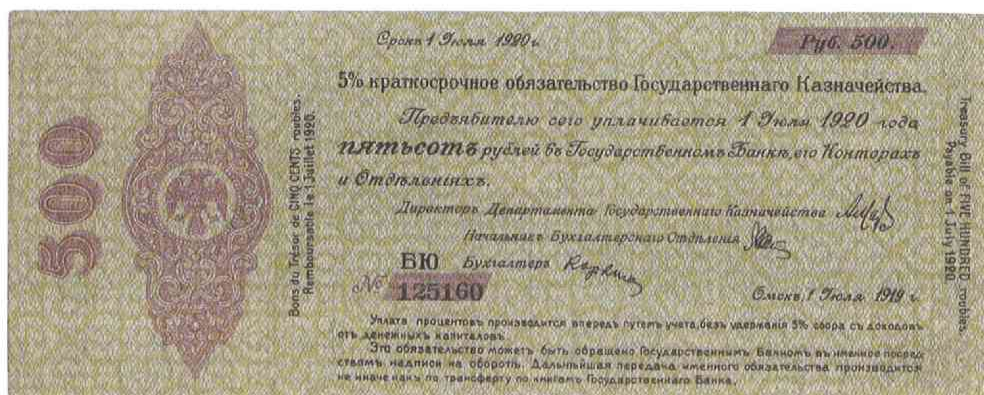
(裏)



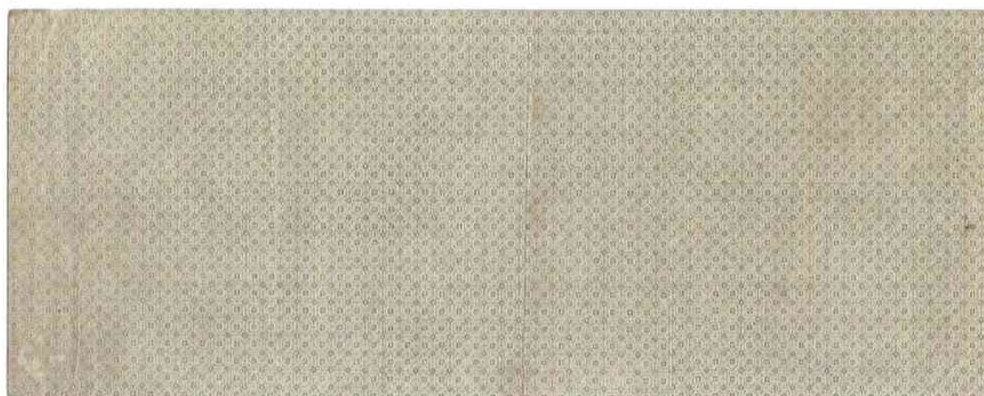
28. 50 ルーブル紙幣：シベリア臨時政府の統治期(1919～23年)に流通
紙幣の大きさ(縦5.8cm×横14.4cm)、縮小比率(80%)

寄贈ロシア紙幣について

(表)



(裏)

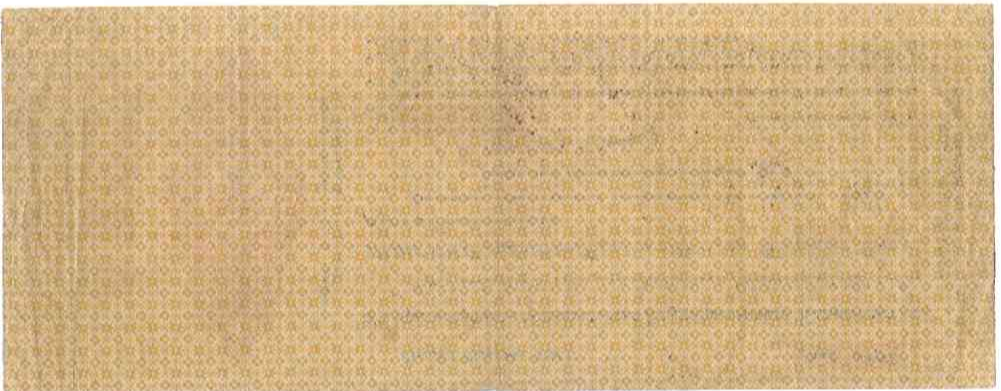


29. 500 ルーブル紙幣：シベリア臨時政府の統治期(1920～23年)に流通紙幣の大きさ(縦8.6cm×横21.6cm)、縮小比率(60%)

(表)



(裏)

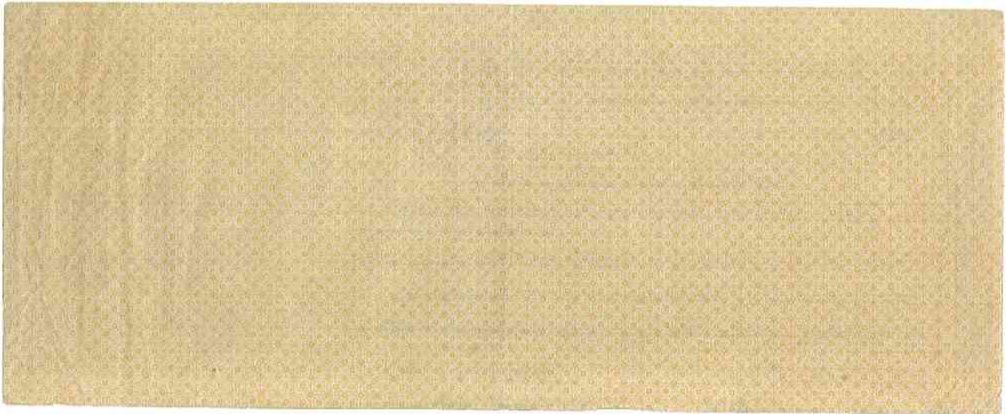


30. 1000 ルーブル紙幣：シベリア臨時政府の統治期(1920～23年)に流通
紙幣の大きさ(縦9.1cm×横23.3cm)、縮小比率(60%)

(表)



(裏)



31. 1000 ルーブル紙幣：シベリア臨時政府の統治期(1920～23年)に流通紙幣の大きさ(縦9.2cm×横22.8cm)、縮小比率(60%)